

# 知床で夢を育てませんか!



数百年後の豊かな知床の森と生物相の復元に向けた取り組みは、皆様から寄せられる毎年の寄付金によって支えられています。引き続き暖かいご支援をよろしくお願い致します。

## ●運動に参加するには?

申込書を郵送またはファックスにてお送りください。ホームページからの申し込みもできます。

寄付金は1口5,000円で、何口でも結構です。郵便振替か現金書留で斜里町役場までお送り下さい。

### ●郵便振替の場合

口座番号：02740-8-10555  
加入者名：斜里町役場

### ●現金書留の場合

申込書も同封の上、斜里町役場自然保護係へ直接郵送ください。

## ●運動に参加すると!

●将来の知床の森をイメージした募金証書を発行いたします。

●ご寄付いただいた年の活動状況を、翌年に「しれとこの森通信」でお知らせいたします。

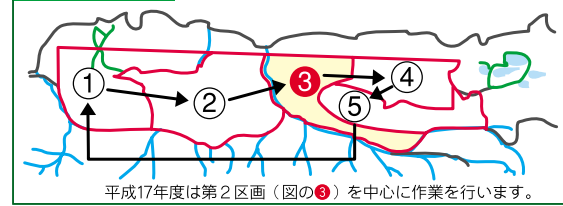
●運動地の森を通じて交流し、森づくりにたずさわる機会(しれとこの森交流事業)を提供します。

●5年周期の森づくり計画が一巡する毎に報告書をお届けします。次回は平成20年にお送りします。

## 平成17年度の主な作業・交流事業予定 応募締め切り間近!!

本年度は、岩尾別台地西側の第三区画を中心に作業を行います。

### 作業区画地図



●岩尾別川沿いでは、シマフクロウが営巣できるような大木の樹皮保護作業を平成11年から進めてきました。今年度は、過去に保護された樹木のネットの巻きなおし作業を進めていきます。

●運動が目指すお手本の森として、知床の天然林に設けた長期モニタリング調査区の調査を実施します。

●風衝地など緊急的に森林の回復が望まれる地域に対して、植樹作業を進めます。苗畑で休養させていた、山採りの養生木を樹皮保護ネットで保護して植え付けていきます。

### ネットをつながる しれとこの夢の森

運動地におけるニュースや自然情報などを更新していきます。運動参加申し込みもできます。

URL <http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>

### ●知床自然教室 7月30日～8月5日

知床の原生林に抱かれた野外生活の1週間。ベースキャンプを作って海・山・川へ、アウトドアのエキスパート達が引率。



参加費：35,000円(現地までの交通費は別途必要です)

対象：小学校4年生～高校3年生 締切日：7月9日

お問合せ：知床自然センター

Tel 01522-4-2114 Fax 01522-4-2115

### ●しれとこの森の集い 9月18日

午前中は森の番人の案内で森づくり作業地の見学。午後は記念植樹祭。どちらか一方のみの参加も可能です。



参加費：無料

お問合せ：斜里町役場自然保護係

Tel 01522-3-3131 Fax 01522-2-2040

### ●森づくりワークキャンプ 11月1日～11月6日

スタッフと寝食を共にしながら、実際の森づくり作業に打ち込む6日間。12名限定、早いもの勝ちです。



参加費：18,000円(現地までの交通費は別途必要です)

対象：18歳以上 定員：12名

締切日：10月20日 ※ただし先着順で定員になり次第締め切ります。

お問合せ：知床自然センター

Tel 01522-4-2114 Fax 01522-4-2115

### お申込み・お問い合わせ先

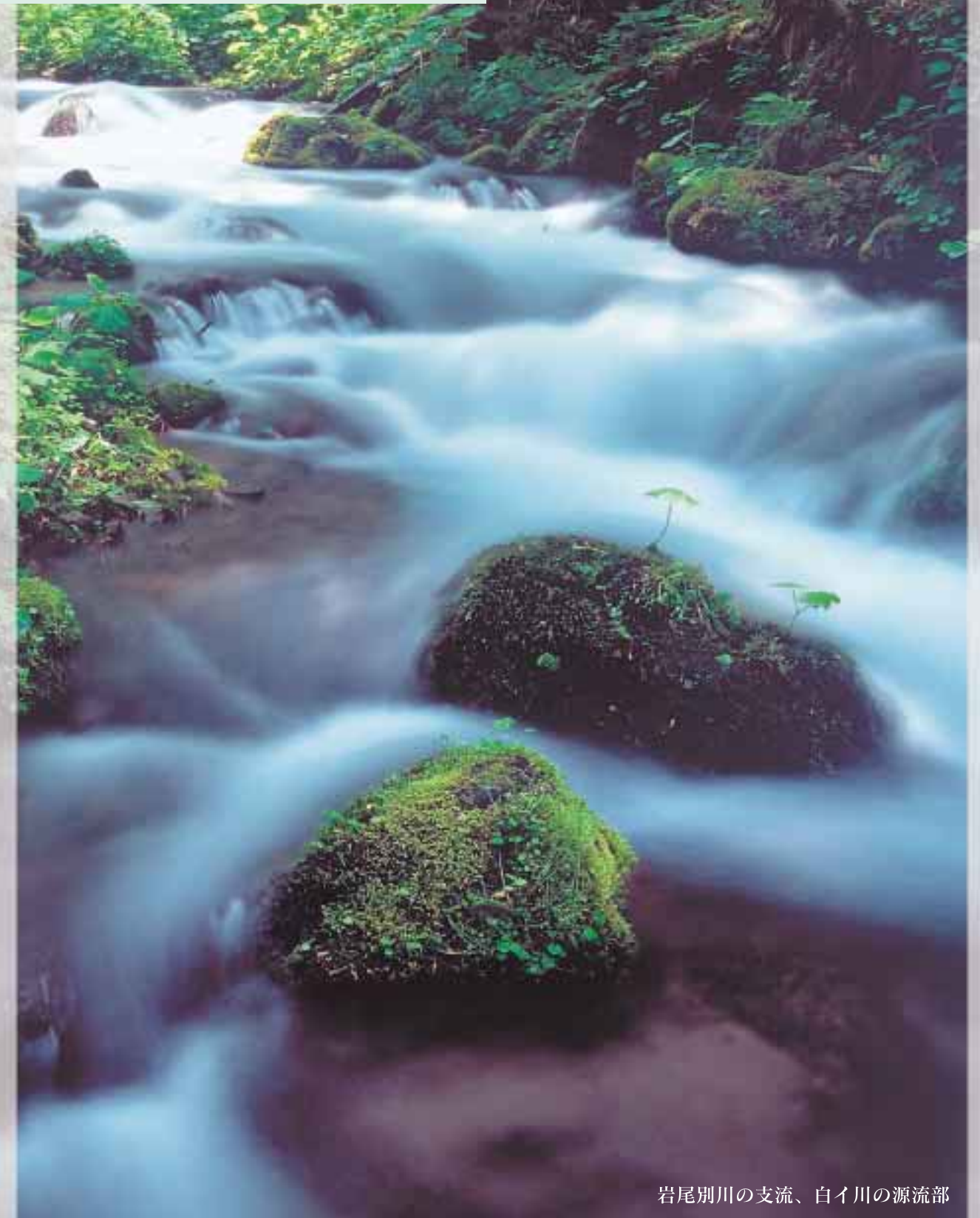
〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地 斜里町役場自然保護係  
TEL 01522-3-3131(内線125) FAX 01522-2-2040

編集(財)知床財団 印刷(有)斜里印刷 Design / 川村一路

# しれとこの森通信

2005/No.8

100平方メートル運動の森・トラスト



岩尾別川の支流、白イ川の源流部

この用紙は環境保全(資源活用)のため再生紙を使用しています。



**NATIONAL TRUST**  
知床で夢を育てませんか!  
いのちあふれる森を次の世代へ

# 川から始まる森づくり

森づくりの現場から

～ 岩尾別川における森づくりの取り組み～

写真：岩尾別川

## 川は森をつくる

雪解け水が地下水となり、再び地表へと現れる源流部。たくさんの栄養を含んだ水は、川にすむ生物を育むエネルギーを十分に蓄え、川の上流まで遡上したサケ・マスは、産卵後にそこで生活している動物達の食料となります。それらはやがて、土壌を作りあげる基礎となっていきます。

海と森をつなぎ、豊かな物資循環の流れをつくる河川の存在は、知床の森づくりにおいても重要な要素です。

運動地を流れる岩尾別川では、川から始まる森づくりに取り組んでいます。



## 森に囲まれた川へ

岩尾別川に沿って走る町道岩尾別温泉道路。そこには、ゴロゴロとした大きな岩が河畔を埋めつくす風景が広がっています。河川の氾濫と改修を重ねた結果、瀬や淵といった河川の起伏や木々の緑陰などはほとんどなく、生物達がすむ環境としてはとても厳しい状態です。

「かつての豊かな河畔林を復活させよう」  
岩尾別川の河畔に森をつくる取り組みは、平成11年から開始されました。

河畔を埋めつくす岩の上にシカの侵入を防ぐ防鹿柵をたて、表土を盛り、岩の隙間に苗を植えていきます。厳しい条件下で進められた地道な作業でしたが、苗木たちはわずかな土をしっかりと握り締め、厳しい風雪を乗り越えて毎年着実な成長を重ねてきました。

しかし昨年の春、激しい風雨が北海道全域を襲い、その影響で岩尾別川河畔にある防鹿柵が倒壊してしまったのです。シカの餌がまだ少ないこの時期、植えつけられた若い木々が彼らの餌となるのも時間の問題でした。この緊急事態に、急遽、ボランティアの募集を行い、2日間で延べ14名の方々のご協力を得て、無事に柵を修復することができ

ました。柵の中の木々の一部はシカに食べられてしまいましたが、多くは順調に生育しており、河畔林再生に向けた取り組みは人々の思いによってつなぐことができました。

## 海からの流れを再び

岩尾別川から姿を消してしまったサクラマス。その復元作業（稚魚などの放流）に取り組んでから5年が経過しました。

かつては多数のサクラマスが棲息していた岩尾別川ですが、河川環境が変化した現在、果たして再定着できるでしょうか？昨年の調査では、岩尾別川で回帰遡上をした親魚の確認数はわずかに10匹前後でした。まだまだ復元といえる状態ではないのですが、これまでの調査から様々な課題も見えてきています。

なぜサクラマスが順調に定着しないのでしょうか？その理由の一つに治山ダムなどの河川工作物によって、上流の良好な産卵環境まで遡上できないという問題があります。また釣り客による影響も考えられます。

そんな中、オホーツク海と森づくり作業地をつなぐ重要なパイプである岩尾別川では、今新たな取り組みが開始され始めています。魚の動きに配慮した河川工作物の改良の検討、釣り人にキャッチ&リリースをお願いする看板の設置など、少しずつですが具体的な対策が始まっています。

専門家の知恵と職人の技術、そして多くの方々の支援を受けて、岩尾別川復元に向けた作業はまた一歩前進しようとしています。『100平方メートル運動の森・トラスト』が目指す原生の森づくりと生物相の復元は、岩尾別川からも動き始めました。



無事修復された河畔林育成のための防鹿柵

日本のナショナルトラスト運動の先駆けとして重要な役割を果たしてきた、斜里町主催の「しれとこ100平方メートル運動」。たくさんの方々の熱い想いに育まれてきたこの運動が、またひとつ大きなステージへ上がろうとしています。

2004年1月。日本政府はユネスコに知床の世界自然遺産登録を推薦しました。その対象エリアには、しれとこ100平方メートル運動地全体も含まれています。

かつて開拓された場所も、世界自然遺産の候補地として検討されています。これは極めて異例なことです。開拓跡地を放置することなく、その土地を保全し、もとの原生林と自然生態系を復元しようという、この運動の取り組みに対する高い評価の表われであるとも言えるでしょう。

「このような運動が地域で興り、そして多くの人々の力で継続されていることはとても素晴らしい！」

昨年6月に遺産登録の可否判断のための現地調査に訪れたIUCN（国際自然保護連合）の専門官は、そんな言葉を残していきました。

知床の地は、開拓によって失ったもの以上のなにかを、しれとこ100平方メートル運動を通じて手に入れようとしているのかもしれない。

2005年7月。知床の世界自然遺産登録の可否の最終判断が下されます。

斜里町長 午 末 日

知床世界自然遺産候補地

しれとこ100m運動地

# 平成16年度のしれとこの森交流事業報告

## 知床自然教室

昨年で25回目を迎えた知床自然教室。全国から31人の参加者が集まり、7月30日～8月5日にかけて例年どおり野外キャンプ中心のカリキュラムを実施しました。

オリジナルTシャツづくりや宝探し、森づくり作業のお手伝い、山や原生林の探検など、様々なプログラムを通して知床の自然を体感しました。

自然教室開催中は、猛暑、雨降り、強風とめまぐるしく天候が変化しましたが、みんなで協力して無事に野外生活を満喫することができました。最終日には、一段とたくましく成長した子供たちの笑顔がとても印象的でした。



グループ対抗の宝探し。みんなの行く手をはばむ難問が次々と出題されます。見つけた宝物は何か？それは参加者だけの秘密です！

## しれとこ森の集い

しれとこ森の集いは、9月19日に実施され、全国から50名の参加者が集まりました。

午前中はあいにくの雨となりましたが、森の番人が案内するバスツアーで知床峠および運動地の見学を行いました。知床横断道路を知床峠方向へ進んでいくと、うっすらと紅葉したダケカンバやミヤマハンノキなどの高山帯の樹種が霧の中から姿を現しました。幻想的な雰囲気と森の番人の解説に参加者の皆さんは、窓の外の景色に釘付けでした。

午後には雨もあがり、参加者全員で記念植樹を行いました。雨上がりの澄んだ空気は清々しく、一足早い秋を感じた一日となりました。



過去に植樹された1本の苗の前に森の番人の話が始められました。何気なく見ていた苗から知る、木や森や自然の話に皆さん惹きこまれていきます。

## 森づくりワークキャンプ

平成16年度の森づくりワークキャンプは、10人の参加者が集まり、11月1日～6日にかけて例年通りの合宿形式で実施しました。開催初日、緊張の面持ちで集まると、全員が過去に参加経験があるリピーターばかり。まるで同窓会のようなと大笑いのスタートとなりました。

ワークキャンプのベテラン揃いということもあり、息のあったチームワークで今回もたくさんの作業を進めることができました。期間中は森づくり作業のほか、森の番人の解説による原生林ミニトレッキングや知床の森の秋の恵みをいただいたり皆さん大満足のキャンプとなりました。



今年の植樹では、つる性のコクワも植樹しました。ベテランぞろいの参加者たちでしたが、初めての取り組みに興味津々です！

## 平成16年度の主な作業結果

平成16年度は、幌別台地の東側に位置する第2区画を中心に作業を進めました。防鹿柵の拡張や過去の作業地の現状調査、植樹用の苗の育成・管理などを実施しました。

### ●防鹿柵の拡張作業

平成11年に防風林育成のために設置した6m×18mの防風防鹿柵2基を、20m×30mのサイズに拡張しました。これにより新たに984㎡の植樹スペースが確保されました。

### ●モニタリング調査

5年前、樹種の多様化を図る目的で、過密な二次林に陽光を取りこむための隙間をつくりました。今回、追跡調査を実施しましたが、やはりシカの影響が強く、新たな若い広葉樹を確認することはできませんでした。樹種の多様化を図るためには、防鹿柵が必要であることを改めて痛感する結果となりました。

### ●植樹用の苗の育成・管理

シカの採食圧により知床の森で減少が著しいオヒョウやハルニレ、ナナカマドなどを中心に、計11種類、5,000本以上の苗の育成作業を実施しました。

### ●その他

これまでに進めてきたシカ対策の樹皮保護ネット巻き作業や植樹作業、岩尾別川でのサケ・マス再放流作業も継続して実施しました。

- 樹皮保護本数：約180本
- 広葉樹植樹数：約1300本
- 針葉樹植樹数：約800本
- サケ・マス再放流数：約1100匹

昨年も多くボランティアの方々に支えられ、たくさんの作業を進めることができました。作業に参加していただいたボランティアの人数は、延べ150人にものぼり、その他にイオン環境財団や地元斜里町の方々にもご協力いただきました。

### ◆イオン環境財団のご協力による植樹を実施

平成15年度から引き続き、イオン環境財団のボランティアの協力により、運動地産の広葉樹苗の植樹作業を行いました。今後3年間継続して実施する予定です。



### ◆地元斜里町の方々にもご協力をいただきました

- ◆斜里青年会議所のみなさん  
苗畑での苗植え替え作業と樹皮保護作業
- ◆斜里高校総合学科1年生のみなさん  
苗畑での除草作業と樹皮保護作業
- ◆斜里ロータリークラブのみなさん  
広葉樹苗の植樹作業



## カエル池のカエルって何かエル??

昨年もカエル池では、いろいろな作業を行いました。池の水が夏場に干上がるという課題を抱えていたので、知床自然教室に参加している子ども達と近くの小川から池に水を引く作業を行いました。また、カエル池を訪れる（であろう）シマフクロウのための止まり木を設置しました。

ところで、このカエル池にはいったいどんなカエルがいるのでしょうか？

たくさんの動物が暮らす知床の森。さぞかし何種類ものカエルがいるに違いない、と思われるかもしれません。

しかし、知床の森には2種類のカエルしかいないのです。そのうち1種類はみなさんもよくご存知のアマガエル、そしてもう1種類は、エゾアカガエルというカエルです。



### カエル池とは??

カエル池は、シマフクロウの餌を増やすために造った人工池です。平成10年に、春先の雪解け水が溜まるこの場所に3つの穴を掘ると、それは小さな池になり、カエルやエゾサンショウウオが卵を孵すようになりました。カエル池周辺では様々な森づくり作業が進められ、また知床自然教室のキャンプ地ともなっています。知床の動物や生態系についての、子ども達の学習の場としても活用しています。

エゾアカガエルは、北海道の森や湿地、山の中など幅広く住んでいて、体の色は赤茶っぽく、手足は少し短めのかわいらしいカエルです。このエゾアカガエルは、雪解けのころに冬眠から覚め、池や水溜りへ産卵のために集まってきます。まだまだ雪が残るころ、森の中がなにやらにぎやかになるのはこのカエルたちの仕業でした。知床の森では、5月半ば頃にカエル達の大合唱を聞くことができます。



新人森林再生員の目で見えた森づくり作業

文一 熊本将志

# 「苗畑から溢れ出したエネルギーに感動しました！」

私が森林再生員となった平成16年春、周囲にはまだ雪が残り、フキノトウやフクジュソウが終わりを迎えた頃、まず最初に取り組んだ仕事は、苗畑での植樹用苗の植え替え作業でした。苗畑には、知床の森から集められた何種類もの種がまかれ、小さな苗木になります。ところが、この苗をそのまま運動地に移植しても決して根付かないのだと森の番人は言います。苗畑という土の軟らかい、管理も行き届いた場所で、苗を掘り取っては植え、また掘り取っては植えるという行程を数年間繰り返すことによって、厳しい環境でも苗が順調に成長するための根をつくり出すことができるのだそうです。植え替えを行う苗のほとんどは5年生未満の苗で、高さも60cmに満たない程度のもので主です。苗木に与える負担を少なくするため、苗の芽吹き前にこの作業は進められていきます。

数千本単位で育成されている苗木の植え替えには、膨大な時間がかかります。周辺の森では、キタコブシやエソヤマザクラが花を咲かせ、その他の木々も次々と芽吹いていきます。そんな中、自分が作業を行っている苗畑で目にするのは、葉っぱの無い棒切れが整然と並んだ光景でした。確かに、芽は大きく膨らんで少し開いているものも見られるのですが、見渡した風景はとても寂しく、5月半ばになっても芽吹かない苗木を前にとても不安な気持ちになりました。

それから数日が経過したある日のこと、いつものように苗畑へ作業に向かいました。太陽の日差しは強く、春は通り過ぎてしまったかのような陽気でした。苗畑に到着したその時、あまりにも変貌したその景色に思わず足が止まりました。苗木が一斉に芽吹いていたからです。大小様々な並べられた棒のような苗木たちが、宙に浮いた緑の絨毯へと姿を変えていました。私にとって、下から湧き上がった苗木たちのエネルギーは上空を鮮やかな緑に染める木々の芽吹きよりも衝撃的な感動でした。待ちに待った春とはいえ、いつしか半袖シャツになって夢中で作業をしている自分に気がきました。

目の前に広がった小さな知床の森。それはいつしか、自分一人では持ち上げられない程の大きな木になり、やがて知床の森にどっしりと根を下ろすかもしれません。苗畑からあふれ出したエネルギーは、今年から森林再生員となった私に、知床の森づくりの一員として歩み始めたことを実感させてくれました。

## 森づくり作業地の人



所属：知床財団自然復元事業係  
名前：熊本将志

平成16年度から、知床財団\*の新しいスタッフとして「100平方メートル運動の森・トラスト」の現地業務を担当。森の番人と一緒に、森づくり作業や交流事業の運営を行っています。

\*『100平方メートル運動の森・トラスト』の現地業務は、運動主催者である斜里町から知床財団が委託を受けて実施しています。



## 森づくり作業地の苗畑では

森づくり作業地には2つの苗畑があり、30種ほどの知床の木々の育成を行っています。種から育てた苗や山から一時避難させた木々の育成作業を行っています。

秋の植樹に向けて、植え替え作業や除草作業、水やり作業など膨大な時間をかけて苗の維持管理を行っています。知床の厳しい自然の中でも育つ苗をつくるため、森の番人の熟練された技術が生かされています。

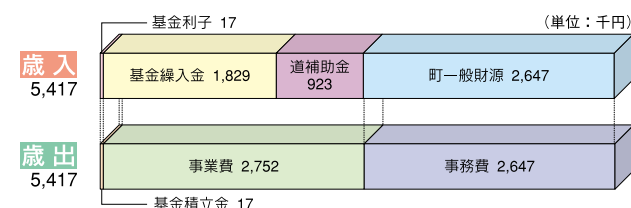


## 平成16年度決算

### ■保全管理事業

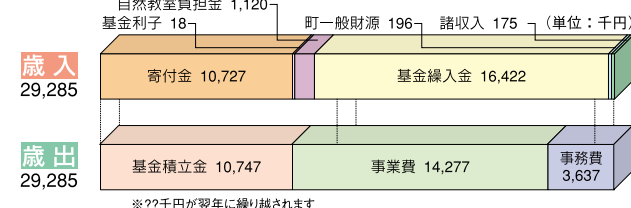
事業費は、運動地の下刈りなどで約275万円を支出しました。事務費は主に「しれとこの森通信」の印刷・発行費用で約265万円です。

運動地面積	849.98
保全済み地域 (寄付金による取得地)	459.26
(既存町有地)	390.72
今後の取得対象地	11.92



### ■森林再生事業

森林再生のための現場作業(850万円)、専門委員会の運営や関連調査(201万円)、森の通信の企画・編集に(83万円)、交流事業の運営(264万円)などを知床財団に委託して実施しました。また、主な事務費はパンフレット等の印刷や受付事務員の賃金などで364万円です。



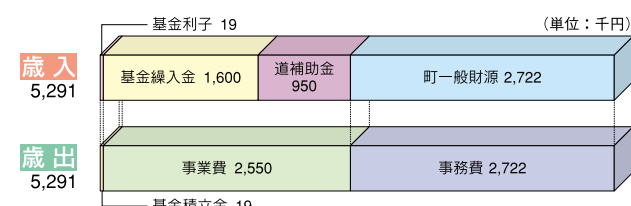
### ■森林保全基金の状況

歳入	国立公園内森林保全基金 (保全事業のための資金)		国立公園内森林保全基金 (再生事業のための資金)	
	H15年以前	H16年	H15年以前	H15年
寄付金	522,534	0	120,121	10,727
利息	67,905	17	406	20
計	590,439	17	120,527	10,747
土地取得	325,113	0	77,702	14,277
植樹等事業	125,611	1,829	127,440	2,145
事務費	81,543	0	20,858	23,003
計	532,267	1,829	98,560	16,422
残高	58,172	△1,812	21,967	△5,675

## 平成17年度予算

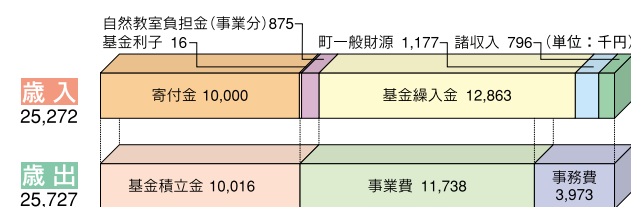
### ■保全管理事業

事業費として、植林地の下刈りに道補助を含めて約255万円を支出します。事務費272万円は、主にしれとこの森通信の印刷・発行費用に支出します。



### ■森林再生事業

事業費は総額約1,174万円で、森林再生の現地作業や森の交流事業の企画運営、森の通信の企画編集、森林再生専門委員会の運営などの事業を実施します。事務費は事務員賃金(159万円)や森の通信等の印刷・発行費用(71万円)など約397万円です。



## NATIONAL TRUST The Shiretoko 100m<sup>2</sup> Movement 100平方メートル運動の森・トラスト

# たくさんの寄付をありがとうございました

平成16年度も多くの皆様からのご寄付をいただきました。女子大の同窓生みなさんに声をかけていただいたの寄附や、お孫さんの誕生を祝うお祖父様からの寄附がありました。社員一同でボーナスの一部を毎回寄附いただいている会社のみなさんや、運動参加者の奥様をガンで亡くされたご主人から、思いをこめて高額のご寄付をいただきました。この他全国各地から、たくさんの皆様のご厚意を寄せていただきました。ここに改めて御礼申し上げます。

